

第2回 若手研究部会 2022年度活動報告書

現代都市ローカリティ部会 主査 清山陽平

2022年度は伏見区南部巨椋池跡の地域性の調査を、現代美術作家である八幡亜樹氏と共同で行い、地図や映像といったアウトプットも制作した。またこうした調査や制作は、本部会の構成員である池田佳穂が企画した日本およびインドネシアにおける研究者・表現者らとの共同プロジェクト“RECIPE LIBRARY”の一環としても共有された。制作や調査の過程における成果共有や最終成果発表は本部会構成員である鈴木宏明の協力のもと、京都三条京阪裏のカルチュラルスペースにて実地＋オンラインの形式で開催された。今はなき巨椋池を中心とした京都南部(伏見区、宇治市、久御山町等)に渡る明瞭ではない地域性の、調査を通じた制作かつ制作を通じた調査を、国内またインドネシア各地のプレイヤーと合わせて実践・共有し、三条京阪にて実地で開催できたことは、本部会の趣旨に合致した大きな成果となった。

- ・共同プロジェクトの概要について:

<https://www.instagram.com/p/Ccsp7Ncv20N/>

- ・参加メンバー、スケジュール等について:

<https://docs.google.com/.../16kD9stBtAZllOdt9q-nb.../edit...>



写真1 三条京阪裏の長屋での実地で開催された成果報告会の様子



写真2 日本・インドネシアメンバー共同でのオンラインミーティングの様子



図1 巨椋池の地域性に関する調査結果であり制作物の一部でもあるポスター